

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	休憩時間等		
タイトル	目で見て学ぶソーシャルディスタンス		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離感がつかめない		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	1 mの距離を徐々に覚え、友達や先生と約1 m離れて立てる		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	感染防止に必要な距離を実体験する		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ 1 mの位置に目印をつけた掲示物を色々なところに掲示
- ・ 友達や先生と1 m感覚で立ってみて手を伸ばしてみるなど距離を体感する
- ・ 1 mをいろいろな場所で測ってみる
- ・ 1 mの間隔を意識しながら先生と距離をとる練習を行い、実際に測定してみる
- ・ できるようになってきたら2 mなども挑戦してみる



指導事例

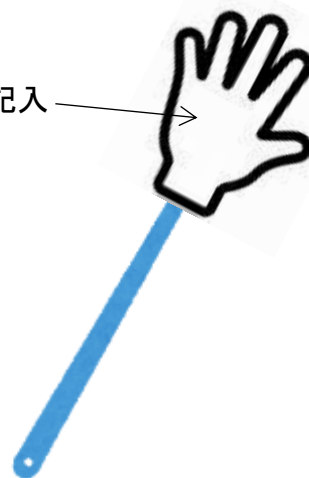
※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	授業		
タイトル	ソーシャルディスタンスでカルタ		
児童生徒の障害による習上・生活上の困難・課題	人との距離感が難しい。いつもと違うことに戸惑いを感じる。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染予防に必要な距離感を保つことができる		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	距離が近くなりがちな活動でも一定の距離を保たせることができる		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

授業中、カルタを使った活動をすることがある。比較的、生徒が好きな活動の1つだが、カルタを取るときには、どうしても距離が近くなったり、接触したりしてしまう。そこで、ハエタタキを使ってカルタを取るようにする。ハエタタキを使うことで、生徒同士が物理的に近づくことを避けることができる。また、ハエタタキの先に自分の手のひらの模った絵を貼り付けることで、親しみをもって活動ができる。

手のひらに名前を記入



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動、学習場面、日常生活		
タイトル	クイズを通して楽しく学ぼう！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	行動の適・不適について具体的な事例を一つ一つ教えないと、自分勝手な解釈をしてしまう。物事を安易に考えてふざけてしまい、知識を実生活で活かすことができないことがある。衛生の観念が十分に定着しにくい。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	クイズを楽しみながら、衛生や感染防止について興味を持って学ぶことができる。学んだことを、具体的なルールとして、実際の行動に結び付けられるようにする。衛生面の意識を高める。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	ソーシャル（フィジカル）ディスタンスを、具体物（マグロの絵）を通して視覚的・体感的に把握する。感染防止に必要な具体的行動様式をカルタをしながら学び、クイズでその理解度を確認する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・感染症対策として必要な知識や具体的行動様式をカルタにして、一つ一つ説明しながらカルタとりをする。（身体的な接触を避けるため、札を教師が読み上げ、取り札を見つけた人は挙手をして当てられた者一人だけが行く）
- ・人との距離を1～2メートル空けると言っても、具体的な距離がつかめないうえ、実物大（1.6メートル）のダンボール製マグロを作製し、それを手に持たせて実際の人と人の距離をつかませる。
- ・それをもとに教室の机と机の距離を確認させ、机の位置に印をつける。
- ・理解度を確認するため40問程度の〇×クイズを行う。（生徒の生活行動の様子を見ながら、問題を追加することもある）
- ・問題ができていなかったところは個別に再度説明して理解を促す。行動ができていない時にはクイズやマグロの絵を思い出させ、楽しい雰囲気の中で感染予防を意識させる。



〇×クイズ



カルタ（取り札）



マグロの絵

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学校生活		
タイトル	ルールを守ろう！！ ソーシャルディスタンス！！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	中学校という新しい環境での生活に不慣れな中で、落ち着いて過ごすことが大変である。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	視覚的に感染症対策がわかりやすくなるよう、校舎内で掲示物を作成し、他の生徒と同様のルールをきちんと守れるようにする。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	掲示物などを工夫し、視覚的に理解できるようにする。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。



- ・下駄箱のところに設置。
この線の所で距離を保ち、
生徒はお互いに距離を保つようにした。



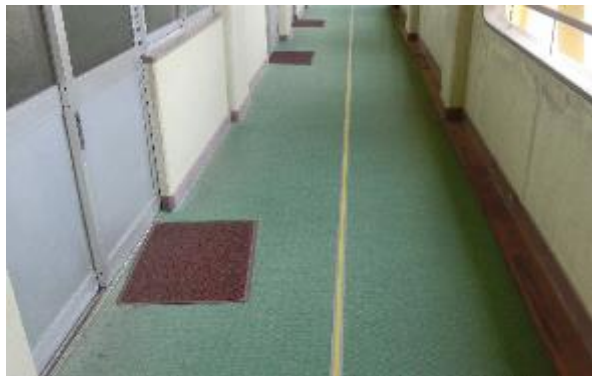
- ・窓に「ソーシャルディスタンス」を設置。視覚に訴えることで、
2m間隔の意識を促した。
2mの確認を行った。
ソーシャルディスタンスの意味を
伝えた。



- ・手洗い場の間隔をあけるため、待機場所の線を引くことで、間隔を守るよう実際に立たせ確認した。



- ・左側一方通行で、生徒同士の接触を控えさせた。



- ・教室の前の廊下も左側通行にし、生徒同士の接触を控えさせた。



- ・教室掲示を作成し、HRで確認を行い、コロナ対策を行うようにした。

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・ <u>中学校</u>	学 年	<u>1・2・3</u> ・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・ <u>学校生活</u> ・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活		
タイトル	トイレの3密を減らす		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	・トイレの前に密集して近くの友だちに寄ってしまう。 ・足下を見て段差（すのこ）がないか等確認することができないことがある。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	・感染防止に必要な距離を保ってトイレに並ぶことができる。 ・足下の線を意識して並ぶことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	物理的な間隔を身につけることができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・休業中の課題をクイズ形式でイラスト（写真）入りで印刷し、ラミネートをしてテープで廊下に1m間隔で貼り付けた。
- ・コンビニエンスストアのレジのように待つことができる。
- ・各教科に依頼していろいろな言葉やイラストを考えた。
- ・この階は右側が男子で歴史、左側は女子で理科。上の階は逆にした。

